いたちかわらばん

通刊５８号　鼬川・独川／川原番・瓦版　'12夏号

【版画　宗森英夫】　【辺渕橋下流】

夏は来ぬ～

貴方は金環日食を見ましたか？

私は幸いにもバス停までの道すがら雲の切れ間に金環日食を見ることが出来ました。

全国では一体何人の人たちが天を見上げたことでしょうか。五月は、正に全国挙げての「天文ショー」の月でした。

科学者達はこの機会に太陽の直径を測定して正確な値を算出（1,392,020km）したようです。

来月、七月には、天の川を挟んだ牽牛星と織女星が逢引するというおおらかで素朴な感じがする七夕祭りがあります。間に挟まれた今月・六月はそうした耳目をそばだたせる天文ショーがありません。何となく梅雨でジメジメしたイメージが持たれる月ですが、そんなに湿っぽく考える必要はありません。野山には新緑のキミドリ、若葉の瑞々しい輝き、沢山の花々が咲き初める時期であり、空には燕がヒラリと飛び交い、軒下に巣作りをするし、ホトトギスがあの有名な「テッペンカケタカー」とさえずるシーズンであります。

また、ジューンブライドという言葉に象徴されるように人生の新たな船出をするに相応しい月でもあります。更に、夜になれば星空に代わって、ほら、あの神秘的な光の乱舞、そうですホタルの季節です。

ゆかた姿の娘さんが手にウチワを携えてホタルを見ている：そんな絵が描かれた看板をいたち川の川べりで見たことがあるでしょう。

いたち川はホタルたちのふるさとでもあるんですよ。さあ、天文ショーに代わって地上の豊かな自然の営みを満喫しようではありませんか。　（ピンテール）

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です

「荒井沢市民の森」は素晴らしい

５月２１日（月）、いたち川散策マップの現地確認があると聞き、参加させていただきました。区政推進課といたち川ＯＴＡＳＵＫＥ隊が、散策コースの現況や案内表示板などを確認して今年度中に改訂版を発行するそうです。

今回見学した「アライサワ」ですが、市民の森は「荒井沢」、せせらぎ緑道と小川アメニティは「洗井沢（川）」と表記を区別しています。これは川が荒れては困ることから、“洗”の字をあてて「洗井沢」と命名したためだそうです。

天神橋から洗井沢川せせらぎ緑道を通りつつ、水辺で見かけた草花や樹木の名前をいたち川ＯＴＡＳＵＫＥ隊の副隊長・和久井さんに聞きました。ヒメツルソバやアジアンタムほかたくさん教えていただきました。

洗井沢川小川アメニティに入ると栄区のグランドキャニオンとよばれている大断崖が迫ってきました。この断崖は昭和３０年代、羽田空港や東名高速道路を造るために土砂を採取した跡だといわれています。ごくらく広場の先には田んぼがあり、公田小と桂台小の５年生が田植えから刈取りまで行うそうです。稲からどうやってお米ができるのか貴重な体験学習になるものと思います。さらに上流に向かって進むと、その昔に築造されたという灌漑用水の溜め池の跡が３つ（上・中・下）ありました。先頃、「上」の池の水量が増えてまるでダムのようになったため、愛護会で危険防止の水抜き工事をしたとのこと。倒れたクヌギの大木の立て直しやジャケツイバラの棘のある蔓の支え、竹やぶの刈込みの状況などを見て作業のいきさつまで聞くことができました。

荒井沢市民の森愛護会と上荒井沢水辺愛護会、そして地域のみなさんの知恵と努力の汗が織り込まれ、生物多様性豊かな荒井沢市民の森が守られていることに感動しました。　（梅翁）

金環日食は見えましたか？

５月２１日（月）朝７時過ぎ、雨が止んだ空を見上げて、今日の金環日食は栄区からは見られないかとあきらめかけていたところ、厚い雲が薄くなって勢いよく流れだし、２０分過ぎた頃から一瞬晴れ間が覗き、太陽を見あげると月の影が大きく映っていました。が直ぐに雲が厚くなって見えなくなり薄暗くて、太陽のあたりだけが雲の流れで時々明るくなったり暗くなったり・・・３０分頃にわずかに晴れ間から見えた！と一瞬思いました。　その後も見続けましたが雲が厚くなって８時頃にはいつもの朝の光に変わっていました。

テレビでは各地からの実況中継をしていましたが、きれいに金のリングが映っていましたし、ベイリービーズという、ビーズが数個連なっているような瞬間の貴重な映像もありました。

今度日本の広い地域で金環日食が見られるのは３００年後とか、皆さんは今回見えましたか？

（うぐいす）

（写真は、栄区でＫさんが撮影した金環日食）

紅葉橋が新しくなりました

いたち川本川のなかで主要な橋である紅葉橋が今年４月に完成しました。河床の整備、流路の一部変更をはじめ橋台から全てが新しくなり、欅の巨木も切られ、同時に周囲の道路も広げられ、全く新しく生まれ代わりました。６年前に完成した天神橋の架替えに次ぐ工事でした。　（谷渓）

発行年月
2012年6月
通刊58号

発行：独川OTASUKE隊　（いたちがわおたすけたい）
OTASUKETAI事務局：栄区役所区政推進課企画調整係　〒247 - 0005　横浜市栄区桂町303 -19
TEL 045 - 894 - 8161　FAX 045 - 895 -2260
栄土木事務所下水道・公園係　〒247- 0007　横浜市栄区小菅谷　1-6-1
TEL 045 - 895 - 14 11　FAX 045 - 895 -1421
（お便り・お問い合わせは こちらまで）

荒井沢の自然

● 荒井沢周辺の概況

荒井沢市民の森は栄区の公田町の一角の谷戸と林、畑地からなる丘陵地で、そこを源流とする洗井沢川（いたち川の左支川で天神橋で合流）から形成されています。

JR 本郷台駅から 2Km の位置にあって南側の稜線は鎌倉市と隣接し、鎌倉市側は今泉北自然環境保全地区および円海山北鎌倉近郊緑地保全地区となっています。

地形的には、三浦半島に続く山地性丘陵地の一角を占め、沢が削った細長い谷戸に沿って沖積低地が形成されています。谷戸の奥部にはかつて溜池が築かれていましたが、現在は堤だけが残っており、溜池内は湿地となっています。平坦部は、昭和 40 年代に東名高速道路建設用の土砂採取した後がゴルフ場となっています。

● 自然保全・復元のための調査概要

平成６～７ 年にこの丘陵地を里山とする保全計画「荒井沢里山再生」計画として植物（植生・植物相）、昆虫、鳥類の他哺乳類、は虫類、水生生物等の調査がされました。今回は、その時の調査結果のうち出現種類が非常に多く、豊かな植物相を有していることが報告されているところの植物について記載します。

● 当時の環境分類別にみた植物相

市街地的環境部は土取り場や周辺の埋め立て等により土地が影響を受けているために、植えられたシバ群落と、その周辺にはカゼクサ・オオバコ群落が多く見られました。

畑地の農道は大型機械の導入が難しいため、集約的農地利用が行われていること、農道や周辺の土手が良く刈り込まれているためカラスビシャク・ニシキソウ群落、ユウガギク・ヨモギ群落が発達して伝統的畑地景観が保たれていました。

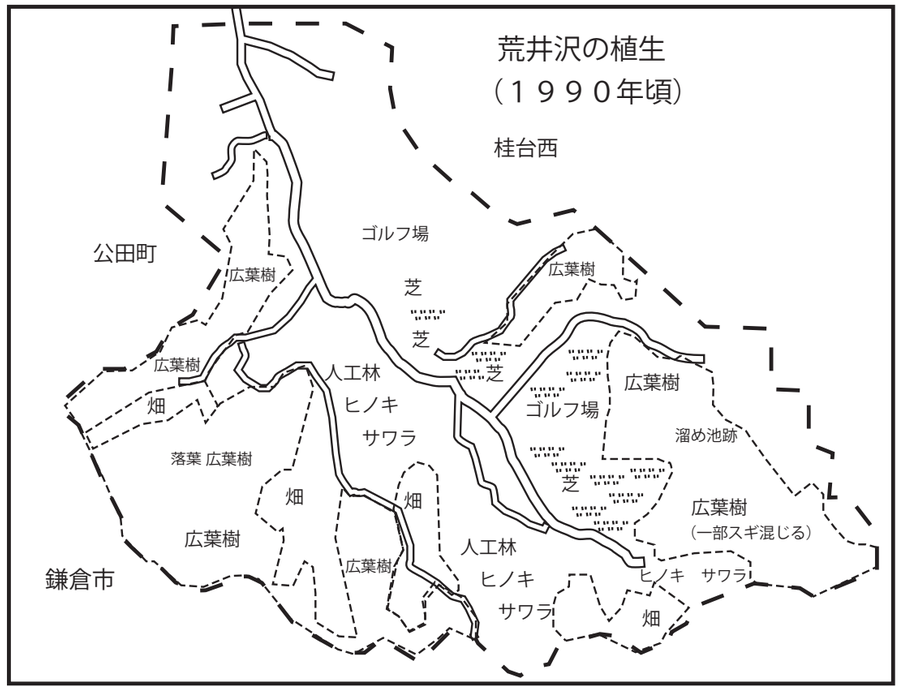
水田跡は数年前から放棄されヨシなどの多年草群落に置き換わっています。しかし、谷戸田復活を願った市民活動によってウリカワ・ コナギ群落が回復してきていました。

林縁・伐採跡植物には、雑木林の道路端斜面にはヌルデ群落、土採取後の断崖にはハコネウツギ群落、クズ群落、雑木林の林縁には水分が多いことからアキノノゲシ・カナムグラ群落がみられました。

針葉樹林は戦後に植林されたもので、高木層にはアケビやツタウルシ、低木層にはアオキ、タマアジサイ、イヌビワ、草本層にはイノデ、ベニシダ、ミゾシダ、アスカイノデ、ミウライノデのシダ植物が繁茂していました。

落葉広葉樹の雑木林は薪炭林として利用され、落ち葉や下草は肥料や燃料として利用され、生活の一部であったことがうかがえました。近年は利用価値を失ったため、大径木化・高木化し、アズマネザサが林床を覆い尽くしていました。一方、谷戸奥の切り立った崖地には地下水が滲みだし、その岩場にはツルデンダの群生する岩隙植物群落が見られました。

水・人・子（ミジンコ）



左：森からいたち川に向かう階段の両側に植えられたアジサイ　右：いたち川斜面のツツジ園での植樹風景

森から水辺へ　アジサイロード～つつじ園へ

雨のなかに明るい彩りで道行く人達を楽しませてくれるアジサイは梅雨の時期の日本の代表的な風景です。

アジサイの苗一〇〇本を横浜市からいただいて上郷市民の森の西斜面の沿道に最初に植えたのが二〇〇三年です。それから毎年三〇本の苗をいただき、また、自分たちで挿し木、株分けして沿道の斜面に下方へ、下方へと植え続けてきました。階段を下り、梅林の遊歩道の両側にも植え、昨年は遂に石原橋の所まで植えることができました。その距離およそ三〇〇ｍのアジサイロードができました。今年も五〇本の苗を補植しました。

アジサイは他の花木と比べると根付きが良く、成長も早いので成育は容易ですが、森の中の斜面に植えるため、アジサイに絡む蔓、下草の雑草、笹刈りなどの管理作業が必要になり、会員総出で年に三～四回の作業を行っています。

最近はカメラを持った中年のご夫婦の散歩姿をよく見かけます。先日は、バスの中からきれいなアジサイが見えたので途中下車して見に来ました、と言うご夫婦もいました。森の沿道のアジサイは、最今はすっかり地域の風物詩になっています。

アジサイロードに隣接するいたち川の斜面に、三年前からツツジ園を造成しています。斜面の幅約三〇ｍ、長さ約一三〇ｍのいたち川左岸を三段に分け、上段と中段がお花畑になりました。上段には、一昨年ツツジ苗約九七〇本を植え、昨年は中段の二分の一 の面積にサツキ苗約四五〇本を植えました。最終年に当たる今年の植樹会には、中段の残りの面積にツツジ苗六〇〇本、サツキ苗一五〇本を六月一七日に植えました。

今回植えた中段の植樹地は、これまで長く放置されていたのでイタドリが繁茂し地中深く入った大きな根をツルハシ、ヤマグワを使って数人で一週間をかけての整地作業になりました。

植樹会は子ども班と男性班に分けて行いました。子ども班は親子で上段の花畑と平地にツツジの苗を植え、記念に参加した子どもの名札をたてました。男性班は参加者約三〇名が中段の斜面の上方に長く並んで一斉にツツジの苗を植えました。

今年の植樹で斜面の造園計画は終了します。来年の春には広いいたち川の斜面にツツジ、サツキが咲き誇ることでしょう。見上げるも良し、上から眺めるも良し、いたち川に面した広い空間は絶好の場所です。

（上郷森の会　木村賀数）

蘇った、万葉の植物　ヤマユリ

ヤマユリは夏の盛りに白い大きな花を咲かせ、芳香を漂わせます。万葉の時代から人を楽しませ、歌に詠まれています。

昭和二九年には神奈川県の県花に選ばれました。一三〇〇年前から栄区で大規模住宅地開発が始まる五〇年ほど前までは広く知られていたことになります。しかし、その後、宅地の開発が進み、そこに私たち住民が押し寄せてきて緑が少なくなり、ほかの山野草とともにヤマユリも見ることが希になりました。唯一残された森は、整備されることもなく、日の当たらない暗闇の世界となってしまいました。

これに対し上郷市民の森を対象とする「上郷森の会」は森の保護と保全の一環として、荒れた雑木の間伐、下草刈りをし、森に日の光が射すようにと常々森づくり活動を行っていたことが幸いしてか、姿を消していた万葉の植物ヤマユリが、ここ数年前から所々に堂々とした姿で蘇ってきたのです。

ヤマユリは種が発芽して花が咲くまでには、五年かかると言います。自然環境を大切に守ればヤマユリは応えるのです。

蘇れ、ヤマユリ！

（上郷森の会　川名しのぶ）

ヤマユリの
香りが満ちる
森のなか